

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

夏の暑さが和らいだのか、朝夕の時間帯にコオロギの鳴き声が聞こえてくる。コオロギは暑さがとても苦手だ、気温が高いとあまり泣かない節足動物に

含まれる昆虫の1つだ。主にオスが前翅をこすり合わせることで音を出す。鳴き声の種類は、オスが自分の縄張りを主張する響く声で鳴く「ひとり鳴き(縄張りの宣言)」、メスに求愛する低く弱い声で鳴く「誘い鳴き(求愛)」、自分の縄張りに別のオスが入った際に、追い払うために力強い鳴き声の「争い鳴き(威嚇)」の3つだが、この猛暑で過ごしやすい場所を争っているのかなぜか力強い鳴き声が響く。酷暑は動物たちにも辛い環境になっているのだから。

俳人「夏井いつき」さんが指導する番組で「1/f (エフ分の1) ゆらぎ」の表現を知った。小川のせせらぎ、木漏れ日など精神的な安定や癒やしの効果はこの言葉で詠む人が多いのだと。秋を迎

日常生活の中の不思議が観光資源になるかもしれない

洋の寶石と呼ばれるヒスイから、東京大や山口大などの研究チームが岡山県で採取したヒスイの中から黒緑色の鉱物を発見。日本神話に登場する天照大神にちなんで「アマテラス石」と命名したと発表

姫川水域もヒスイの産地として名高い。産出したヒスイの原石に黒緑色の鉱物が無いのが気になる。山から流れた石が多い河川の観る楽しみ方がある。「今は大切な鉱物が発見できない石だが、将来含有物の再配合により魅力的な資源にならないか」と夢を巡らすと、河川で過ごす時間も、魅力的な観光資源になると思われ

「金子みすゞの詩「ふしぎ」に「わたしはふしぎで たまらないうらみ くもからふる あめがぎんにひかっていることが、わ



通称白馬オリンピック道路みそら野・白馬スイーツ工房リッカ近くの横断歩道の白線が薄れている。安全な観光地の在り方が問われている。..... たしは ふしぎで たまらない」と日常の生活でも不思議が満ちていると詠んでいる。視点を変えた見方を楽しもうてはないか。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)